

GG 用語解説リスト (GG No.236まで)

No	用語	内容
1	# 7 1 1 9	急な病気やけがをした場合に、「今すぐ病院に行ったほうがいいのか」、「救急車を呼んだほうがいいのか」など迷った際に専門家からアドバイスを受けることができる相談窓口。
2	4 R	Refuse (リフューズ)、Reduce (リデュース)、Reuse (リユース)、Recycle (リサイクル) の頭文字をとった、ごみ減量への取組のキーワード。リフューズは、ごみになるものを買わない、断ることを指す。
3	A B A	Applied Behavior Analysisの略で、応用行動分析を指す。人間の行動を個人と環境の相互作用の枠組みの中で分析し、実社会の諸問題の解決に応用していく理論と実践の体系。
4	A C P	Advance Care Planningの略称。将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、そのご家族や近い人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援する取組のこと。
5	AED GO	救急車より早く、救命ボランティアがAEDを持って、心肺停止発生現場に急行するAED運搬システム。119番通報先の消防指令センターと連携して運用することを前提として構築されている。
6	AI-OCR	Artificial Intelligence-Optical Character Recognitionの略称。AI技術とOCR技術を掛け合わせることで、帳票の読み取り精度の向上や手書きの文字列・非定型フォーマット文書の認識を可能とした。
7	AYA世代	Adolescent and Young Adult(思春期・若年世代) の頭文字をとったもので、主に思春期 (15歳～) から30歳代までの世代を指す。
8	BCP	Business Continuity Planの略称で、事業継続計画を指す。自然災害や事件などの緊急事態が起きた際に、企業や公共機関が持つ資産への被害を最小限に食い止めること及び中核事業を継続させることを目的とし、いち早く事業全体を復旧させるためのさまざまな対策・方法をまとめた計画のこと。
9	CAPTCHA(キャプチャ)機能	セキュリティ向上のための画像認証機能。フォームのスパム対策として、広く使われている。
10	CSIRT (シーサート)	Computer Security Incident Response Teamの略称。コンピューターやネットワーク上で何らかの問題が起きてないかどうか監視すると共に、万が一問題が発生した場合に、原因解析や影響範囲の調査を行う組織。
11	DMAT (ディーマット)	災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team)の略。災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム。

G G 用語解説リスト (G G No.236まで)

No	用語	内容
12	D X	デジタルトランスフォーメーション。2004年にスウェーデンのウメオ大学のエリック・ストルターマン教授によって提唱された概念。その内容は「進化し続けるテクノロジーが人々の生活を豊かにしていく」というもの言い換えると、“進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること”をいう。
13	eスポーツ	エレクトロニック・スポーツの略。電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉。コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技としてとらえる際の名称。
14	G I G Aスクール	G I G Aスクール構想。2019年に開始された、全国の児童・生徒1人に1台のコンピューターと高速ネットワークを整備する文部科学省の取り組み。
15	G X	Green Transformationの略称。化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動のこと。
16	JV (joint venture、ジョイントベンチャー)	建設業における共同企業体。資金力・技術力・労働力などから見て、一企業では請け負うことができない大規模な工事・事業を複数の企業が協力して請け負う事業組織体を指す。
17	KDBシステム	国保データベースシステム。国保保険者や後期高齢者医療広域連合における保健事業の計画の作成や実施を支援するため、国保連合会が「健診・保健指導」、「医療」、「介護」の各種データを利活用して、①「統計情報」・②「個人の健康に関するデータ」を作成するシステムをいう。
18	PFAS	PFOS(ペルフルオロオクタンスルホン酸)及びPFOA(ペルフルオロオクタン酸)を含む有機フッ素化合物の総称
19	RPA	Robotic Process Automationの略称。事業所内の事務作業や定型業務などを効率化するソフトウェアロボット。
20	ZEB (ゼブ：ゼロ・エネルギー・ビル)	建物の運用段階でのエネルギー消費量を、省エネや再生可能エネルギーの利用をとおして削減し、限りなくゼロにするという考え方。
21	アップサイクル	捨てられるはずのものに対して元よりも価値の高い新たな製品を生み出すこと。
22	アレチウリ	北アメリカ原産のツル性植物。つるを伸ばして河原を覆うように繁茂する。そのため、他の植物に届く光を遮ってその生育を阻害し、従来の生態系に悪影響を及ぼす。狛江市内の多摩川でも増えており、爆発的な繁殖力で河川敷を覆い、オギ(荻)原や樹木などを枯らしてしまう。
23	医療的ケア児	医学の進歩を背景として、NICU(新生児特定集中治療室)等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のこと。

GG 用語解説リスト (GG No.236まで)

No	用語	内容
24	インシデントレスポンス	ウイルス感染、不正アクセス、情報漏えいなどのセキュリティを脅かしている事業に対して、原因の調査、対応策の検討、サービスの復旧などを適切に行うこと。
25	エイジハラスメント	年齢や世代が違うことを理由にした差別的な言動や嫌がらせのこと
26	エシカル消費	消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと。
27	エッセンシャルワーカー	人々の基本的な生活やインフラなどの維持に、必要不可欠な職種の従事者。医療従事者や介護福祉士のほか、食料品販売員、運送業者、消防官などさまざまな職種を指す。
28	オーバードーズ	薬を使うときの一回あたりの用量 (dose) が過剰である (over) こと、または薬物の過量摂取に及ぶ行為。健康被害が起きたり、依存症になってやめられなくなる場合がある。
29	オープンデータ	誰でも許可されたルール の範囲内で自由に複製・加工や頒布などができるデータ
30	オストメイト対応トイレ	オストメイトとは『ストーマ』といわれる人工肛門や人工膀胱 (ぼうこう) 保有者の方を指している。排せつ物等の処理をしやすい機能を備えたトイレとして公共施設を中心に整備が進んでいる。
31	オブスタクルスポーツ	「走る」「跳ぶ」「登る」などの各障害物をクリアーする様々な運動を通じ、肉体的・精神的な可能性にチャレンジするスポーツ。近代五種競技では、馬術に代わる新種目として、2024年パリ五輪以降の正式種目として採用予定。
32	カーボンオフセット	温室効果ガスの排出について、削減しきれなかった分を、他の形で埋め合わせようとする試み。対してカーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出量を、吸収量と差し引いてゼロにしようという考え方。
33	気象防災アドバイザー	地域の気象現象に精通し防災の知識も持っており、自治体の防災対応も支援できる国土交通省より委嘱された専門家。
34	きょうだい児	病気や障がいのある兄弟姉妹を持つ子どものこと
35	クーリングシェルター	冷房が効いた部屋を開放し、暑さをしのぎ熱中症などの対策に役立つ施設。
36	グリーンスローモビリティ	時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称。導入により、地域が抱える様々な交通の課題の解決や低炭素型交通の確立が期待される。
37	ケアラー	介護や看病、療育が必要な家族や近親者を無償でサポートする人
38	ゲノム編集食品	遺伝子を効率的に改変するゲノム編集技術を農作物等の育種(品種改良)に応用した食品。

GG 用語解説リスト (GG No.236まで)

No	用語	内容
39	コグトレ	認知機能に着目した包括的支援プログラム。
40	コマラジ	狛江ラジオ放送株式会社。2019年（令和元年）11月に開局したコミュニティラジオ（周波数は85.7MHz）。狛江市と狛江ラジオ放送株式会社間で「災害時等における情報の放送に関する協定」を締結している。
41	サードスペース	自宅や学校、職場とは別の居心地のいい居場所の事
42	サウンディング調査	市有地などの活用方法について、公募により民間事業者から広く意見や提案を求め、事業への有用な意見やアイデアを収集することを目的とした、民間事業者と市との直接の意見交換による調査。
43	産後ドゥーラ	産前・産後の女性に寄り添い、家事や育児などさまざまなサポートをする専門家。ドゥーラとは、古いギリシャ語で「ほかの女性を助ける経験豊かな女性」という意味。
44	シェアサイクル	相互利用可能な複数のサイクルポートが設置された、面的な都市交通に供されるシステム。（国土交通省都市局による地方公共団体に対する調査における定義）
45	シビチャット(Civichat)	自分が利用できる制度がLINEでわかるサービス。Civichatを使えば、チャットボットの質問に答えていくだけで自分に合った制度を見つけることができる。
46	小1の壁	子どもの小学校入学と同時に親の就労の両立がしづらく、仕事と家庭の両立が困難になること。
47	ジョブボン	「JOB（仕事）」と「本」を組み合わせた造語で、読み終わった本を障がい者就労支援施設で再生し、ネット通販する活動。
48	水素エネルギー	水素を酸化・燃焼させることによって発生するエネルギーを利用。燃焼時にCO2を排出しないという特徴から、環境にやさしい次世代エネルギーとして期待されている。
49	水道道路	調布都市計画道路3・4・2号線
50	スクールロイヤー	学校・教育委員会・学校法人に対して、学校で発生するいじめ・不登校・学校事故などさまざまな問題について助言・アドバイスをする弁護士。
51	スポ協	NPO法人狛江市スポーツ協会の略。令和6年4月1日より狛江市体育協会から狛江市スポーツ協会へ名称が変更になった。
52	スポットビジョンスクリーナー	弱視の危険因子となる斜視および屈折異常(近視、遠視、乱視、不同視)を僅か数秒でスクリーニングできる機器。
53	スマートウェルネスシティ	住む人が自然と健幸になる街（歩きやすい歩道や、きれいな景観があれば自然と歩くことになり、健康的な生活ができるようになる）。
54	スマートシティ	ICTの活用により、あらゆる面で最適化された運営都市を指す。
55	セットバック	土地の境界線から一定の間隔を確保し、建物を建てること。

No	用語	内容
56	節薬バッグ	「節薬バッグ」と名付けられたエコバッグを患者に配布し、飲み忘れなどにより自宅に残っている薬を全て入れて薬局に持参してもらう取り組み。
57	ゼロトラスト	境界型セキュリティに代わる新しい概念で、脅威の侵入、感染を前提にしているセキュリティ概念。
58	デジタルシチズンシップ教育	「情報技術の利用における適切で責任ある行動規範」を指す。テクノロジーに関する倫理的・文化的・社会的問題を理解し、責任を持って、かつポジティブにそれを利用するための規範である。
59	デジタルデバイド	コンピュータやインターネットなどの情報技術 (IT: Information Technology) を利用したり使いこなしたりできる人と、そうでない人の間に生じる、貧富や機会、社会的地位などの格差。個人や集団の間に生じる格差と、地域間や国家間で生じる格差がある。
60	デマンド交通	バスや電車などのようにあらかじめ決まった時間帯に決まった停留所を回るのではなく、予約を入れて指定された時間に指定された場所へ送迎する交通サービスのこと。規則正しく運行されている公共交通機関と異なり、利用者が自分から連絡する必要がある。
61	トイレトレーラー	災害時を想定して製造された新しいタイプの移動設置型のトイレ。最大の強みである機動力を生かして、けん引車でどこにでも設置ができ、給水タンク・汚水タンクを備えているため到着後すぐに使用することが可能。
62	二の橋通り商店会	喜多見駅南側、世田谷区から市境をまたいで狛江市に入ったところにある商店会
63	妊孕(にんよう)性(せい)温存療法	がん治療の影響で生殖機能が低下、喪失する前に卵子や精子などを採取、冷凍保存する方法。
64	農家レストラン	農業を営む者が食品衛生法(昭和22年法律第233号)に基づき、都道府県知事の許可を得て、不特定の者に、自ら生産した農産物や地域の食材を用いた料理を提供し、代金を得ているもの。
65	ノルディック・ウォーキング	2本のポールを使って歩行運動を補助し、運動効果をより増強するフィットネスエクササイズの種類である。
66	パーキングパーミット制度	障がいのある方や要介護高齢者、妊産婦の方など歩行が困難な方や移動の際に配慮が必要な方のための駐車区画について、対象者に利用証を交付することで、区画の適正利用を推進する制度。
67	パークPFI	都市公園において飲食店、売店等の公園施設(公募対象公園施設)の設置又は管理を行う民間事業者を公募により選定する手続き。
68	バーチャルツーリズム	ICT技術を活用して実在する観光目的地へ仮想的に到達し、関係者との相互作用を通して観光経験が得られる形態の観光

No	用語	内容
69	パートナーシップ制度	国や自治体が同性のカップルを「結婚に相当する関係」と認める制度のこと。同性パートナーシップ制度ともよばれる。
70	パトラン	安心して暮らしやすい社会を実現することを目指して、防犯パトロールとランニングを同時に行う「新しいスタイル」の防犯活動。
71	犯罪機会論	犯罪者に犯罪の機会を与えないことによって、犯罪を未然に防止しようという考え方。犯罪者を減らすという視点で考えるのではなく、犯罪企図者が犯罪を起こしにくい環境を整備することで犯罪を減らすという対処法。
72	フェーズフリー	身のまわりにあるモノやサービスを、日常時はもちろん、非常時にも役立てることができるという考え方
73	フォローアップセンター	自宅療養者フォローアップセンター。都が令和2年11月に開設し、LINEを活用した健康観察や、自宅療養中に必要な食料品・パルスオキシメーターの配送など自宅療養者の支援を行っている。
74	ふらっとなんぶ	令和5年3月20日に粕江市駒井町にオープンした多世代・多機能型交流拠点のこと
75	フレイル	人は年を取ると段々と体の力が弱くなり、外出する機会が減り、病気にならないまでも手助けや介護が必要となってくる。このように心と体の働きが弱くなってきた状態をフレイル（虚弱）と呼ぶ。
76	プレコンセプションケア	若い世代（女性と夫・パートナー）のためのヘルスケアであり、現在のからだの状態を把握し、将来の妊娠やからだの変化に備えて、自分たちの健康に向き合うこと。
77	放課後等デイサービス	支援を必要とする障がいのある子どもを、発達支援や居場所づくりを目的として放課後や休日、夏休みなどに預かる施設。
78	ほこみち	2020年11月25日に始まった「歩行者利便増進道路指定制度」の通称。道路の占用許可基準を柔軟にし、テーブルやベンチなどを置きやすくして、通りに賑わいを生むことを目的とするもの。
79	ボラード	車止めとも呼ばれている。主に交差点などで、横断歩道との接続部や交差点の開口部に設置し、人的被害を防ぐことを目的としている。ボラードを設置することにより、万が一、車両が歩道に向かって進行した場合でも、車両の進入を防ぐ。
80	マイクロツーリズム	自宅から1～2時間の距離の近場でおこなう旅行や観光のこと。
81	まちなかウォークアブル区域	都市再生整備計画区域内において、賑わい溢れるまちなかづくりに必要な施策を重点的に講じる区域として、市区町村が定めた地域。

G G 用語解説リスト (G G No.236まで)

No	用語	内容
82	メタバース	コンピュータの中に構築された、3次元の仮想空間やそのサービスを指す。
83	メディアリテラシー	次の3つを構成要素とする、複合的な能力のこと。 1 メディアを主体的に読み解く能力。 2 メディアにアクセスし、活用する能力。 3 メディアを通じコミュニケーションする能力。特に、情報の読み手との相互作用的（インタラクティブ） コミュニケーション能力。
84	ユマニチュード	知覚・感情・言語による包括的なコミュニケーションに基づいたケア技法。
85	ランドスケープデザイン	屋外の風景や景観を設計・構築することであり、公共空間デザイン全般を指す。
86	ランドセル症候群	体に合わない大きさ・重さのランドセルを背負ったまま長時間通学することで起こる、身体や心の不調を表す言葉。